

オンライン授業継続中

ペルーでは昨年3月に発表された国家緊急事態令で「全ての学校は一年間オンラインで」とされました。前回の通信で書いた通り、手探り状態で始まったオンライン授業がまさか本当に1年続くとは思いませんでした。ペルーの国境封鎖が解除されるまでは新派遣の教員が来られず、日本から昼夜逆転でオンライン授業を行っていました。苦労は計り知れません。3名の教員がペルーに来ることができたのは、12月でした。

ZOOMを使ったオンライン授業、最初は国・算・社・理・英だけでしたが6月に実技教科も始めました。教科担任制なので、私は担当学年の算数、学活、道徳と全学年の図工、家庭を受け持ちました。教科書を使って進めますが、ZOOMの「画面共有」という機能を使って、自分のパソコンのパワーポイントなどを見せて板書や教材提示を行いました。写真や動画を見せることは教室での授業よりも簡単です。2学期には「IPEVO アイピーボ」というパソコンに繋げる書画カメラが教員と子ども全員に配布され、子どものノートや作業の様子を見ることが可能になりました。その頃には子どもたちもパソコン操作に慣れて活動の幅も広がってきたので、全校集会やオンライン文化祭などの行事も行いました。1年間の学習は無事に終わりましたが、オンライン授業の課題がたくさん見えました。オンラインでは子どもたち同士が同じ空間で遊び、交流することができません。画面越しではコミュニケーションの取り方に限界があり、学校にいるときと同じような関わりは生まれません。まだしばらくこの状況が続くことがとても心配です。新年度が始まり、オンラインでも子どもたち同士の交流が深まる活動を教職員全員で模索しています。

ペルーの選挙



塞がれたスーパーのお酒売り場

最近、ペルーの大統領選挙がありました。昨年、大統領が不正で罷免され新しい大統領が立てられましたが国民の反対によりあっという間にまた大統領が変わりました。そして迎えた今回の大統領選挙。ペルー初の日系人大統領となったフジモリ氏の娘であるケイコ・フジモリ氏も立候補しています。選挙当日は地域の国立学校が会場となり、行列ができていました。そして選挙の前日から、投票が終わるまではお酒の販売が停止されます。スーパーのお酒売り場は塞がれ、レストラン等でも注文はできません。私たちは投票する立場ではありませんが、ペルーの選挙の様子を垣間見ることができました。

駐夫からの一言

配偶者同行休業制度を使ってペルーに来た夫からのメッセージ

ペルーでの専業主婦生活も3年目になりました。コロナ禍の影響で、ここ1年間お手伝いさんが来ていないので、純粋な専業主婦です。日本では家事も育児もほとんど妻に任せきりだったため、いまだに子どもたちは「晩ごはん何？」と妻に聞く事が多いです。まだまだ、経験が不足しているようです。この「晩ごはん何？」は、やっと準備した食事を食べながら聞いてくると、攻撃力は絶大です。言うまでもない事です、家事は多岐にわたっており、1日中何やかんやに手を付けている気がします。「しゅふ」のみなさん、共働きでこれこなしている方々、本当にお疲れ様です。自宅でのオンライン授業も2年目に突入し、家族で過ごす時間はより濃密になっています。残り1年となったペルーでの生活と家族の時間を楽しみたいと思います。